

第4学年国語科学習指導案

1、単元名

金貨は役に立ったの？ 物語をまるごと楽しもう！

教材：「はりねずみと金貨」 ウラジミール・オルロフ(東京書籍 3 年)

2、単元の目標

(1) 国語科としての目標

- 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やすことができる。
- はりねずみの性格、人物像を、叙述を基にして想像することができる。
- 仲間と意見を共有し、考え方感じ方の違いに気付く、その良さを感じることができる。

(2) 汎用的スキル

- 立場の違う人の意見を聞き、自分の意見を客観的、論理的に見つめ直し、よりよく考え直すことができる。(批判的思考力)

(3) 態度・価値

- 同じ問いに対して、自分とは違う考えをもつ人がいることを理解し、考えが違う人と学び合うことのよさを感じることができる。(他者に対する受容・共感・敬意)

3、児童の実態

小学4年生という年齢は、ピアジェによれば、自分の立場を反省したり、自分から離れて客観的に物事を見たりすることが可能になる「脱中心化」が顕れる年齢である。国語科の授業の中での顕れとしては、自分の考えを持ちつつ、それに対する反論を想定することができるようになったり、自分とは違う他者の意見を「確かにそれもある」と認めることができたりするようになる。物語作品においては登場人物に対して同化する読みだけでなく自分と対比させながら読むことができたり、説明文においては筆者の意見を鵜呑みにするのではなく客観的に評価しながら読むことが出来始めたりする。4年うめ組の児童も、概ねその発達の段階をなぞっているといっているだろう。

4年うめ組の児童は、「白いぼうし」や「一つの花」などの物語作品、数々の詩の授業を通し、自分の考えをもち、共有する活動を繰り返し行ってきた。発言する、自分の考えをノートにまとめ上げる、仲間の意見を聴きじっくり考える等、姿勢は様々だが、授業への参加意欲は高い。本単元でも、児童が物語を読み思考力を働かせたうえで、教室の仲間という他者と意見を共有し、自分の考えを広げたり深めたりすることができるよう支援する。教室で物語を読み合うことの価値を味わえるようにする。

4、単元について

①教科から見た特性

本作品は、はりねずみが森の仲間とくり返し出会う構造、意外性のある結末など、ストーリー展開が魅力的な物語である。また、ロシアのアニメ作家による挿絵も可愛らしく、作品のイメージを深めてくれる。児童にとっても、読みやすく、話の展開に引き込まれる作品として映るだろう。

本単元は、中心人物であるはりねずみの気持ちの性格、人物像を、叙述を基にして想像していくことを目標とする。対人物である森の仲間たちは、なぜはりねずみにただでものをあげたり、作ったりしてあげているのだろうか。例えば子ぐまは、遊びに行く度お話を聞かせてもらっている。描かれてはいないが、りす、からす、くもたちも、それぞれ何かしらの形で日頃ははりねずみに世話になっていることが想像される。また、自分より若い相手に対して頭を下げたり、礼をしっかり伝えたりする姿からは、はりねずみの誠実な人物像が読み取れ、仲間たちから慕われていることが想像される。はりねずみの性格や人物像を直接言い表す言葉は本文中に出てこないが、細かな叙述から想像することは可能である。叙述を根拠に想像することによって、思考力・判断力・表現力が養われるだろう。

また、単元の最後には、「金貨は役に立ったのか、立たなかったのか」ということを考えさせたい。これは、物語を場面に分けるのではなく、まるごと捉えないと考えられない問いである。本来、物語の全体像を捉え考える力を育てることは高学年での目標とされている。だが、本教材の魅力、また児童の実態から、本単元においてこの問いを扱うことに意味があると考えたため、取り組みたい。

②汎用的スキルや態度・価値育成の観点から見た特性

ズレを顕在化し、自分の意見を伝えたい、仲間の意見を聞いてみたいと思える共有の学習場面を設定した。このような共有の場が、批判的思考力や、他者に対する需要・共感・敬意をはぐくむことに有効であると考えた。

5、単元計画と資質・能力を育成する主な手立て（全5時間 本時5／5時間）

	学習活動	関連する主な資質・能力	資質・能力を育成する主な手立て
第1次 (3時間)	・絵本を読み、「〇〇が△△したお話」という一文で表す。中心人物と対人物を捉える。	○批判的思考力 ○他者に対する受容・共感・敬意	○様々な考えがもてる問いを扱う（多様な視点から考える必要のあるテーマの設定：批判的思考力） ○異なる意見を聞いて自分の意見が変

	・なぜ森の仲間がはりねずみにただでものをあげるのか考える。		わった時は、いつでも意見のネームプレートを移動できるようにする。 (試行錯誤が可能な場の設定：他者に対する受容・共感・敬意)
第2次 (2時間)	・森の仲間がただでものをあげたくなるはりねずみはどんな人か考える。 ・はりねずみはなぜ金貨を置いていこうと決めたのかを考える。	○批判的思考力 ○他者に対する受容・共感・敬意	○様々な考えがもてる問いを扱う(多様な視点から考える必要のあるテーマの設定：批判的思考力) ○異なる意見を聞いて自分の意見が変わった時は、いつでも意見のネームプレートを移動できるようにする。 (試行錯誤が可能な場の設定：他者に対する受容・共感・敬意)

7、本時の学習指導

(1) 本時のねらい

- ・はりねずみの性格、人物像を、叙述を基にして想像することができる。
- ・仲間と意見を共有し、考え方感じ方の違いに気づき、その良さを感じることができる。

(2) 本時の展開

時間	○学習活動 ・ 予想される児童の反応	◇資質・能力を育成する主な手立て ◆評価
導入 7分	森の仲間がただでものをあげたくなるねずみってどんな人？ ○本時の問いを確認する。 ・前の時間の最後に書いた自分の意見、みんなどう思ってくれるかな。	◇前時の最後に問いを提示し、児童が自分の意見をもった上で授業に臨めるようにする。(批判的思考力)
展開 30分	○学級全体で話し合い、互いの意見を共有する。 ・りすや、からす、くもがただでものをあげたくなっちゃうくらいだから、すごくいい人なんじゃないかな ・子ぐまが遊びに来るたびに、お話をきかせてやってるくらいだから、とっても面倒見がよい人なんじゃないかな。まわりの人たちを大切にしている。 ・私もこぐまに着目したんだけど、子ぐまは、冬ごもりの前におやすみを言うためにわざわざはりねずみのところに来ている。これは相当慕ってないと来ないと思う。 ・大事なはちみつをわすれてしまっていて、ちょっと忘れんぼでうっかりさんなのかもしれない。だから、みんなほっとけないんじゃないかな。 ・言葉づかいも丁寧だし、年下相手でも感謝して頭を礼をいったりしてとっても正しい人なんじゃないかな。みんなに信頼されていると思う。 ・最後金貨を置いていくのが印象に残った。使わなかった金貨をだれかのために置いておくなんて、欲がなさすぎる。僕ならそのまま持っていくな。	◇様々な考えがもてる問いを扱う(多様な視点から考える必要のあるテーマの設定：批判的思考力) ◇異なる意見を聞いて自分の意見が変わった時は、いつでも意見のネームプレートを移動できるようにする。(試行錯誤が可能な場の設定：他者に対する受容・共感・敬意)
結末 8分	○仲間の意見を聞いて自分の意見が深まったことをノートに書く。 ○はりねずみはなぜ金貨を置いていこうと決めたのか自分の考えをノートの書く。	◆考えを共有し、意見を見つめ直し、深めたり広げたりしている。(ネームプレートの移動) ◇「自分の考えが揺さぶられた仲間の意見」を中心に学習感想を書くように伝える。漫然と書かせない。(振り返る場の設定：他者に対する受容・共感・敬意) ◆自分の考えを深めたり、広げたりしている。(ノート)